

病院だより103

美祢市介護老人保健施設 グリーンヒル美祢 ～リハビリテーションを考える～

作業療法士 築地信之



介護老人保健施設は、在宅支援・在宅復帰のための地域拠点となる施設であり、リハビリテーションを提供し、機能維持・回復の役割を担う施設です。

しかしながら、「リハビリテーション」の誤解も多く、病気や怪我及び老化現象などさまざまな原因によって生じた心身の障害に対して、元の状態に戻るような機能訓練を行うことと思われがちです。



そもそも「リハビリテーション (Rehabilitation)」の語源は、re(再び)とhabilis(適した、人間らしい)から成り立っています。

つまり、リハビリテーションとは単に機能訓練をすることではなく、「人間らしく生きる権利の回復」や「自分らしさを取り戻す」という意味です。

介護施設ではよく、高齢者の役割や帰属感が失われることが多いと言われており、私自身も大切にしているのは、利用者さんの「居場所」です。

そのために、リハビリでは個別訓練だけではなく、「集団」を利用して、自分だけが変った存在ではないことを確かめたり、ここに居ていいんだという安心感を得てもらうことが、病からの回復過程にも大きな力となります。そして、集団の中で他者という「ものさし」によって自分を知り、自分らしさを取り戻していくのです。

当施設では、利用者さんの尊厳が奪われないためにも、まずはベッドから離れること(離床)がリハビリの第一歩と考えています。

ベッドから起き上がり、椅子に座ると頭がさえて「やる気」のスイッチが入ります。徐々に移動ができ、活動へ参加したり生活範囲が広がると、本人の心と体が元気になります。そして支援者は介助がしやすくなり、本人がやりたいことへの支援がより多くできるようになります。

また、自分のやりたいことを見つけることができれば、それを成し遂げるために必ずしも歩けないとできないとは限りません。歩けなければ、車いすを利用したり、這って移動するという手段があります。また、畑仕事や調理など自分が直接手を出すことができなくても、人に指示を出して目的を果たすこともできます。



病気や怪我の後遺症などで回復が困難であるにもかかわらず、目標の見えない機能訓練に執着し、残りの人生を過ごすのはもったいないと思います。

利用者さんの生活する場所が、自宅であれ施設であれ、そこに役割があったり、尊厳が守られていると感じられたり、そこに生きがいややりがいのある場所、そういった「居場所」を確保していくことができるように、リハビリテーションを提供していけたらと思います。

